

都市再生整備計画 事後評価シート
長洲西地区

令和2年2月

熊本県長洲町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	熊本県		市町村名	長洲町	地区名	長洲西地区		面積	940 ha		
交付期間	平成26年度～平成30年度		事後評価実施時期	令和元年度	交付対象事業費	113.6百万円	国費率	0.4			
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名								
			○地域生活基盤施設 広場(金魚と鯉の郷広場内トイレ・ベンチ等整備事業) ○地域生活基盤施設 サイン等整備事業(情報板(長洲海岸エリア)、情報板(新塘エリア)) ○高質空間形成施設 街路灯整備事業(緑化施設等(新塘エリア)、緑化施設等(姫ヶ浦・名石浜エリア))								
			提案事業	なし							
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			○道路(一ノ割地区の道路等整備)		平成27年度の住民説明会において、反対意見もあり、要望当時にあった民意形成を図ることが困難であったため。		関連事業やサイン等整備事業等により、長洲港周辺地域の景観の改善及び回遊性の向上が図られることから影響は小さいと判断し、目標及び指標への影響を軽減するものとした。				
			○道路(長洲港入口周辺ロータリー整備事業)		当該整備区域内に町の施設である物産館があり、当初から町商工会に事務所として貸し付け、当該事業実施の際は、施設からの退去に応じる予定であった。当該事業の実施にあたり、町商工会の移転先が見つからず、交渉が難航したため。		関連事業やサイン等整備事業等により、長洲港周辺地域の景観の改善及び回遊性の向上が図られることから影響は小さいと判断し、目標及び指標への影響を軽減するものとした。				
			○地域生活基盤施設 サイン等整備事業(情報板(姫ヶ浦、名石浜エリア))		観光交流センターの整備箇所の変更により、当該箇所におけるサイン等整備の必要性がなくなったため。		影響なし				
			○高質空間形成施設 街路灯整備事業(緑化施設等(長洲海岸エリア))		健康づくりウォーキング大会のルート変更により、本箇所までの整備が不要となったため。		影響なし				
			○高質空間形成施設 長洲海岸遊歩道整備(舗装整備(タータン舗装))		健康づくりウォーキング大会のルート変更により、本箇所までの整備が不要となったため。		影響なし				
		提案事業	○高次都市施設 観光交流センター(水産関連施設整備事業)		熊本県北部漁協から建設予定地を海苔の乾燥施設の用地として使用したいとの要望がなされたため。		観光施設としての機能向上を図るため、既存施設の金魚の館内に観光交流センター機能を整備し、当該施設の利用者数を地域の観光・交流に係る代替指標とし、目標2に対応するものとした。				
			○地域創造支援事業 水産関連施設整備事業(観光交流センター)		熊本県北部漁協から建設予定地を海苔の乾燥施設の用地として使用したいとの要望がなされたため。		観光施設としての機能向上を図るため、既存施設の金魚の館内に観光交流センター機能を整備し、当該施設の利用者数を地域の観光・交流に係る代替指標とし、目標2に対応するものとした。				
			○まちづくり活動推進事業 パンフレット作成・健康づくりウォーキング大会開催等		平成27年度にみどりの創造プロジェクト事業により、長洲港隣接地に「みなと憩い広場」が整備され、広場のオープンに併せて地方創生先行型交付金を活用し、健康づくりウォーキング大会を開催したため。		影響なし				
			○まちづくり活動推進事業 ご当地料理開発等事業		町のご当地料理については、地域雇用創造協議会において、あみの味噌漬「かぶつつき」などのご当地料理の開発を行うことができたため。		影響なし				
			新たに追加した事業	基幹事業	○高次都市施設 観光交流センター(金魚の館)		「観光交流センター(水産関連施設整備事業)」の計画が廃止となったが、本計画の大目標を達成するためには、地域の魅力向上が不可欠であり、代替事業を位置づけ地域の観光・交流機能の強化を図る必要があったため。		目標2に対応する指標として、指標2を「観光交流センター(金魚の館)の利用者数」に変更した。		
					○地域創造支援事業 観光交流センター(金魚の館)		「観光交流センター(水産関連施設整備事業)」の計画が廃止となったが、本計画の大目標を達成するためには、地域の魅力向上が不可欠であり、代替事業を位置づけ地域の観光・交流機能の強化を図る必要があったため。		目標2に対応する指標として、指標2を「観光交流センター(金魚の館)の利用者数」に変更した。		
○事業活用調査 事業効果分析調査		当初、事業効果分析調査を町自営にて実施することとしていたが、より客観的な視点を持って評価を行い、今後のまちづくりを検討するため業務委託により実施することとした。		影響なし							
交付期間の変更	当初	平成26年度～平成30年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
	変更										

	指標			従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
	指標1	指標2	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	数 値						
								モニタリング	評価値					
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	フェリー利用者数	人/年	851,305	H24	868,000	H30	—	900,190	○	あり なし	長洲港周辺の整備により、周辺地域の景観の改善及び魅力・賑わいが創出され、利用者の増加に繋がった。	—	
	指標2	観光交流センターの利用者数	人/年	196,418	H28	208,000	H30	—	179,758	×	あり なし	平成27年度実績が好調だったため、目標値を上方修正したが、平成30年度の観光交流センターの整備において、金魚の館内の一部利用に支障をきたしたことから、利用者数が伸び悩み、目標達成には至らなかった。整備後は地域資源(金魚)の活用により施設の魅力が向上し、利用者の増加に繋がっている。	令和2年4月	
	指標3	金魚と鯉の郷広場の利用者数	人/年	204,233	H24	306,000	H30	—	332,745	○	あり なし	街路環境及び情報板の設置により、地域住民及び観光客の回遊性の向上が図られた。加えて、金魚と鯉の郷広場内トイレ・ベンチ等の整備により、施設環境が向上し、利用者の増加に繋がった。	—	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標			従前値		目標値		数 値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
	その他の数値指標1	その他の数値指標2	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	数 値						
								モニタリング	評価値					
その他の数値指標1	金魚の町としての認知度	%	52.6	H27	/	—	68.0	/	/	/	/	金魚の館内で行ったアンケート結果において、約7割の回答者が「長洲町が九州一の金魚の生産地と知っている」と答えている。加えて、約2割の回答者が「初めて金魚の館に来館した」と答えており、地域資源(金魚)や金魚の館等への関心が高まった。	—	
その他の数値指標2	金魚の館の金魚の展示数	種類	17	H29	/	—	28.0	/	/	/	/	提案事業において、観光交流センターに町の特産品である金魚の展示設備を整備したことで、金魚の館の金魚の展示数(種類)が増加し、地域資源(金魚)の魅力向上に繋がった。	—	
4)定性的な効果発現状況	・街路灯が整備されたことにより、地域住民から「町が明るくなり、歩きやすくなった」「防犯・安全面が向上した」などの好評の声が寄せられており、安全・安心なまちづくりの推進に繋がっている。													
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等			
	モニタリング	—					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					—		
	住民参加プロセス	・都市再生整備計画を町のHPで公開 ・「広報ながす」による事業実施結果の公表 ・まちづくり団体との連携及び金魚の館利用者の意見聴取					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● 今後も住民の意見を聴取する場を設けることを検討する。		
	持続的なまちづくり体制の構築	—					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					—		

様式2-2 地区の概要

長洲西地区(熊本県長洲町) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 有明海と人、自然、観光、文化が織りなす「みなとまち」づくり 目標1: 長洲港周辺の賑わいを創出し、人が集まる賑わいの場の形成を図る 目標2: 地域資源を活かした「みなとまち」らしい景観を楽しめる場等の創出を図る 目標3: 地域住民が楽しみ、憩い、健康的なまちづくりを推進する	フェリー利用者数	単位: 人/年	851,305	H24	868,000	H30	900,190	H30
	観光交流センターの利用者数	単位: 人/年	196,418	H28	208,000	H30	179,758	H30
	金魚と鯉の郷広場の利用者数	単位: 人/年	204,233	H24	306,000	H30	332,745	H30

■情報板(サイン等整備事業)



■基幹事業
地域生活基盤施設
情報板(長洲海岸エリア)

■基幹事業
高次都市施設
観光交流センター整備

□提案事業
地域創造支援事業
観光交流センター整備

■基幹事業
地域生活基盤施設
情報板(新地エリア)

□提案事業
事業活用調査
事業効果分析事業

■基幹事業
高質空間形成施設
街路灯整備(新地エリア)

■基幹事業
地域生活基盤施設
広場(金魚と鯉の郷広場)

■基幹事業
高質空間形成施設
街路灯整備(鯉ヶ浦・名石浜エリア)

凡例

■	基幹事業
□	提案事業
- - -	関連事業

■緑化施設等(街路灯整備事業)



■観光交流センター



■水産関連施設整備事業(観光交流センター)



■金魚と鯉の郷広場内トイレ・ベンチ等整備事業



まちの課題の変化

- ・長洲港周辺の整備により、周辺地域の景観の改善及び魅力・賑わいが創出され、フェリー利用者の増加に繋がった。
- ・街路環境及び情報板の設置により、地域住民及び観光客の回遊性の向上が図られた。更に、景観の改善や夜間の視認性の向上が図られ、周辺住民がウォーキングを行うなど健康の維持増進及び地域の防犯・安全面の向上にも寄与している。
- ・金魚と鯉の郷広場内トイレ・ベンチ等の整備により、施設環境が向上し、利用者の増加に繋がった。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・街路整備や誘導サインの設置を進め、更なるアクセス強化・機能向上を図る。
- ・整備済み施設の定期的な点検、補修を行い、地域の魅力を維持する。
- ・町の交流・情報発信拠点として観光交流センターの利用者数の増加を促進するため、町ホームページやSNS、誘導サインの設置による町外に向けた情報発信を強化する。
- ・ラムサール条約湿地に登録された荒尾干潟との連携強化を図り、長洲港までの新たなウォーキングルートやサイクリングコースの確立を検討し、交流人口の増加・地域の魅力向上を図る。
- ・当該地区に空き家が多く点在していることから、規制と利活用の両面から空き家を活かしたまちづくりを推進していく。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 都市再生整備計画評価委員会の審議

- 添付様式8 都市再生整備計画評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	—	—	—
B. 目標を定量化する指標	●		水産関連施設の利用者数	観光交流センターの利用者数	水産関連施設整備事業の廃止により、金魚の館を地域の観光・交流拠点として、観光交流センター機能を整備したため、当該施設の利用者数を代替指標とした。
C. 目標値	●		有明フェリーの年間利用者数 目標値：870,000人	有明フェリーの年間利用者数 目標値：868,000人	平成15年以降減少傾向にあったフェリーの利用者数について、当初、本整備計画を実施することで、従前値を概ね維持するよう目標値を設定していたが、長洲港周辺の整備内容を変更したため、有明フェリーの利用者数の目標値を修正した。
			観光交流センターの年間利用者数 目標値：198,000人	観光交流センターの年間利用者数 目標値：208,000人	情報板、照明及び観光交流センターの整備内容の変更に伴い、観光交流センターの利用者数の目標値を修正した。
			金魚と鯉の郷広場の年間利用者数 目標値：240,000人	金魚と鯉の郷広場の年間利用者数 目標値：306,000人	情報板、照明及び観光交流センターの整備内容の変更に伴い、金魚と鯉の郷広場の利用者数の目標値を修正した。
D. その他()		●	—	—	—

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	一ノ割地区の道路等整備	100.0	L=1000m	—	—	第1回変更:事業の削除	平成27年度の住民説明会において、反対意見もあり、要望当時であった民意形成を図ることが困難となったため、指標の見直しを行った。 なお、本事業の削減があっても、長洲港周辺の整備により、周辺地域の景観の改善及び回遊性の向上が図られ、フェリー利用者数の向上が期待できることから、指標への影響を軽減することができるものとする。	—	—
	長洲港入口周辺ロータリー整備事業	37.0	L=200m	—	—	第1回変更:事業の削除	当該事業の実施にあたり、区域内の町の施設の移転先が見つからず、計画期間内での事業完了が困難となったため、指標の見直しを行った。 なお、本事業の削減があっても、長洲港周辺の整備により、周辺地域の景観の改善及び回遊性の向上が図られ、フェリー利用者数の向上が期待できることから、指標への影響を軽減することができるものとする。	—	—
地域生活基盤施設 広場	金魚と鯉の郷広場内トイレ・ベンチ等整備事業	58.0	A=73,653.9㎡	59.0	A=73,653.9㎡	第1回変更:事業費の増額	影響なし	●	—
地域生活基盤施設 サイン等整備事業	情報板(長洲海岸エリア)	2.5	n=2	4.0	n=2	第1回変更:規模、期間、事業費の増額 第2回変更:規模の変更	当初情報板の対象を歩行者としていたが、観光交流センターの整備箇所の変更により、国道沿いに情報板を設置したことで、長洲港から下船する車両等の観光交流センターへのアクセス強化が図られるため、指標の見直しを行った。	●	—
	情報板(新塘エリア)	2.5	n=2	2.0	n=1	第1回変更:規模、期間、事業費の減額		●	—
	情報板(姫ヶ浦、名石浜エリア)	2.5	n=2	—	—	第1回変更:事業の削除	影響なし 観光交流センターの整備箇所の変更により、姫ヶ浦・名石浜エリアと新塘エリアの情報板の内容を集約することが可能となったため影響なし。	—	—
高質空間形成施設 街路灯整備事業	緑化施設等(長洲海岸エリア)	2.5	n=2	—	—	第1回変更:事業の削除	影響なし 健康づくりウォーキング大会のルートが、金魚と鯉の郷広場を経由した姫ヶ浦・名石浜エリア方面のルートに決定したことにより、本箇所までの整備が不要となったため影響なし。	—	—
	緑化施設等(新塘エリア)	2.5	n=2	14.9	n=50	第1回変更:規模、事業費の増額 第2回変更:規模、期間、事業費の増額	当初長洲港周辺において、遊歩道や街路灯を整備することとしていたが、観光交流センターの整備箇所の変更により、JR長洲駅から金魚と鯉の郷広場までの街路灯を整備したことで、長洲駅から観光交流センターへのアクセス強化が図られるため、指標の見直しを行った。	●	—
	緑化施設等(姫ヶ浦、名石浜エリア)	2.5	n=2	15.5	n=98	第1回変更:規模、期間、事業費の増額 第2回変更:規模、事業費の減額		●	—
高質空間形成施設 長洲海岸遊歩道整備	舗装整備(タータン舗装)	22.0	L=500m	—	—	第1回変更:事業の削除	影響なし 健康づくりウォーキング大会のルートが、金魚と鯉の郷広場を経由した姫ヶ浦・名石浜エリア方面のルートに決定したことにより、本箇所までの整備が不要となったため影響なし。	—	—
高次都市施設 観光交流センター	水産関連施設整備事業	59.6	A=905㎡	10.0	A=90㎡	第1回変更:規模、期間、事業費の減額 第2回変更:規模、事業費の減額	熊本県北部漁協から建設予定地を海苔の乾燥施設の用地として使用したいとの要望があり、整備箇所を変更し、既存施設の金魚の館内に観光交流センター機能を整備したため、指標の見直しを行った。	●	—

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度		基準 年度		基準 年度	目標 年度					あり	なし		
指標1	フェリー利用者数	人/年	有明フェリーの利用台数実績より、車両数と旅客数(運転手を除く)を合計し、数値を算出した。	—		851,305	H24	868,000	H30	モニタリング	—	—	モニタリング	—	—	—
										事後評価	確定見込み	●	900,190	事後評価	○	—
指標2	観光交流センターの利用者数	人/年	「金魚の館 利用者数推移」より、利用者数を記載。	—		196,418	H28	208,000	H30	モニタリング	—	—	モニタリング	—	●	—
										事後評価	確定見込み	●	179,758	事後評価	×	—
指標3	金魚と鯉の郷広場の利用者数	人/年	「金魚と鯉の郷広場 利用者数推移」より、利用者数を記載。	—		204,233	H24	306,000	H30	モニタリング	—	—	モニタリング	—	—	—
										事後評価	確定見込み	●	332,745	事後評価	○	—
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み			事後評価		
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み			事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	・長洲港周辺の整備により、周辺地域の景観の改善及び魅力・賑わいが創出され、フェリー利用者の増加に繋がりを、目標値を達成した。	—
指標2	・平成27年度実績が好調だったため、目標値を上方修正したが、利用者数は伸び悩み、目標達成には至らなかった。 ・平成30年度の観光交流センターの整備において、金魚の館内の一部利用に支障をきたし、利用者の減少に繋がったため、目標達成には至らなかった。	・観光交流センターの整備後は、地域資源の活用により施設の魅力が向上し、利用者の増加に繋がっており、1年以内に目標を達成する見込みである。
指標3	・街路環境及び情報板の設置により、地域住民及び観光客の回遊性が向上し、金魚と鯉の郷広場の利用者の増加に繋がりを、目標値を達成した。 ・金魚と鯉の郷広場内トイレ・ベンチ等の整備により、施設環境が向上し、利用者の増加に繋がりを、目標値を達成した。	—

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
					基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	金魚の町としての認知度	%	平成29年度金魚の館内において、金魚に関するアンケート調査を実施し、設問で「長洲町が九州一の金魚の産地として知っている」と回答した割合を評価値とする。	—		52.6	H27	モニタリング	—	—	金魚の館内に地域の特産品である金魚の展示設備を整備したことにより、地域資源や金魚の館等への関心の高まりを示す指標として適切と考えられるため。	指標2を補完するものとして設定する。
								事後評価	確定 見込み	●		
その他の 数値指標2	金魚の館の金魚の展示数	種類	平成30年度金魚の館内の金魚展示設備の整備前後における金魚の展示数(種類)を評価値とする。	—		17.0	H29	モニタリング	—	—		
								事後評価	確定 見込み	●	28.0	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・街路灯が整備されたことにより、地域住民から「町が明るくなり、歩きやすくなった」「防犯・安全面が向上した」などの好評の声が寄せられており、安全・安心なまちづくりの推進に繋がっている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
都市再生整備計画を町のHPで公開	<ul style="list-style-type: none"> 予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由) 	<ul style="list-style-type: none"> 【実施時期】平成26年度～ 【実施結果】広く住民の意見を取り入れることを目的として、ホームページに計画を掲載し、意見を募集した。 	今後も住民の意見を聴取する場を設けることを検討する。
「広報ながす」による事業実施結果の公表	<ul style="list-style-type: none"> 予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由) 	<ul style="list-style-type: none"> 【実施時期】平成31年4月 【実施結果】都市再生整備計画事業の全体に対する進捗報告については、実施していないが、都市再生整備計画に位置づけた主要事業の実施結果を掲載した。 	完了
まちづくり団体との連携及び金魚の館利用者の意見聴取	<ul style="list-style-type: none"> 予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由) 	<ul style="list-style-type: none"> 【実施時期】平成29年～ 【実施結果】観光交流センターの整備にあたって、まちづくり団体「金魚のまちあそび」と連携し、地域資源(金魚)の活用を検討を行ったほか、金魚の館利用者の意見を反映することで、利用しやすい施設整備に繋がっている。また、「金魚のまちあそび」が主体となった金魚の館でのイベント活動等の展開に繋がっている。 	今後もまちづくり団体との連携や施設利用者、若い世代の意見を反映し、利用促進を図る。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名: 組織の概要	
なし	予定どおり実施した	-	-	-
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会	事業担当課の職員 (まちづくり課企画調整係、定住促進係、商工観光係、建設課維持管理係、建設計画係)	庁内の関係課へ回覧・照会(随時)	まちづくり課定住促進係

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標3
指標名		フェリー利用者数	金魚と鯉の郷広場の利用者数
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	地域生活基盤施設(広場)・金魚と鯉の郷広場内トイレ・ベンチ等整備事業	○	長洲港周辺の整備により、周辺地域の景観の改善及び魅力・賑わいが創出され、利用者の増加に繋がった。
	地域生活基盤施設(サイン等整備事業)・情報板(長洲海岸エリア、新塘エリア)	○	
	高質空間形成施設(街路灯整備事業)・緑化施設等(新塘エリア、姫ヶ浦・名石浜エリア)	◎	
	高次都市施設(観光交流センター)・金魚の館	○	
提案事業	地域創造支援事業(観光交流センター)・金魚の館	○	増加に繋がった。
	事業活用調査(事業効果分析調査)	—	
関連事業	—	—	—

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	地域住民の意見に留意しながら、街路整備や誘導サインの設置等を検討し、金魚と鯉の郷広場とフェリー利用者、双方の増加による相乗効果を目指す。	観光交流センター及び地域資源を活用し、若い世代のまちづくりへの参加を促進するようなイベント活動等を展開するとともに、町ホームページやSNS、誘導サインの設置による町外に向けた情報発信を強化することで、利用者の増加を図る。
-------	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		
指標名		観光交流センターの利用者数		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	地域生活基盤施設(広場)・金魚と鯉の郷広場内トイレ・ベンチ等整備事業	△	平成27年度実績が好調だったため、目標値を上方修正したが、平成30年度の観光交流センターの整備において、金魚の館内の一部利用に支障をきたしたことから、利用者数が伸び悩み、目標達成には至らなかった。整備後は地域資源(金魚)の活用により施設の魅力が向上し、利用者の増加に繋がっている。 また、金魚の館内で行ったアンケート結果において、約7割の回答者が「長洲町が九州一の金魚の生産地と知っている」と答えている。加えて、約2割の回答者が「初めて金魚の館に来館した」と答えており、地域資源(金魚)や金魚の館等への関心が高まった。	II IV
	地域生活基盤施設(サイン等整備事業)・情報板(長洲海岸エリア、新塘エリア)	△		
	高質空間形成施設(街路灯整備事業)・緑化施設等(新塘エリア、姫ヶ浦・名石浜エリア)	△		
	高次都市施設(観光交流センター)・金魚の館	△		
提案事業	地域創造支援事業(観光交流センター)・金魚の館	△		
	事業活用調査(事業効果分析調査)	—		
関連事業	—			

※目標未達成への影響度

- × × : 事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- × : 事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △ : 数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ : 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ : 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ : 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ : 内的な要因で、予見が不可能な要因。

<p>改善の方針 (記入は必須)</p>	<p>観光交流センター及び地域資源を活用し、若い世代のまちづくりへの参加を促進するようなイベント活動等を展開するとともに、町ホームページやSNS、誘導サインの設置による町外に向けた情報発信を強化することで、利用者の増加を図る。また、ラムサール条約湿地に登録された荒尾干潟との連携強化を図り、長洲港までのウォーキングルートやサイクリングコースの確立を検討し、交流人口の増加・地域の魅力向上を図る。</p>
--------------------------	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会	事業担当課の職員 (まちづくり課企画調整係、定住促進係、商工観光係、建設課維持管理係、建設計画係)	庁内の関係課へ回覧・照会(随時)	まちづくり課定住促進係

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
①長洲町の産業と連携した港 周辺整備促進 工業・商業・農業・水産業等の 連携強化を図り、交流拠点と して長洲港周辺を活性化させ る必要がある。	・金魚の館内に地域の特産品である金魚の展示設備 を整備したことにより、地域資源(金魚)や観光交流拠 点としての機能が高まり、長洲港周辺の活性化に繋 がった。	・観光交流センターの利用促進を図るため、観光交流センター 及び地域資源を活用し、若い世代のまちづくりへの参加を促進 するようなイベント活動等を展開するとともに、町ホームページ やSNS、誘導サインの設置による町外に向けた情報発信の強 化が必要である。	・金魚と鯉の郷広場及び金魚の館について、これまで多彩な イベントに活用されてきたが、今後、地域資源を活用し、若 い世代のまちづくりへの参加を促進するようなイベント活動 等の展開や町外に向けた情報発信を強化することで、更なる 利用促進を図り、人が集い交流する機会を作ることが必要 である。 ・長洲港周辺だけでなく、長洲駅周辺についても今後整備を 検討することで、交流人口の増加・地域の魅力向上を図ると ともに、長洲港、長洲駅、金魚と鯉の郷広場を結ぶことによ る回遊性の向上を図ることが期待できる。
②臨海部の基盤整備とフェ リー周辺環境整備促進 長洲町は臨海部に多くの企業 が進出しており、臨海部の工 業地でのポテンシャルは高い ため、基盤整備とともに港の フェリーや周辺環境の利用促 進を図る必要がある。	・長洲港周辺の整備により、周辺地域の景観の改善及 び魅力・賑わいが創出され、指標1「フェリー利用者数」 の目標値を達成した。	—	
③長洲港を起点とした交流人 口の増加推進 九州新幹線の開通による九 州縦軸と横軸の連携(新玉名 駅と長洲港の接続)による交 流人口の増加や地域活性化 に活かしていくことが必要で ある。	・街路環境及び情報板の設置により、地域住民及び観 光客の回遊性が向上し、アクセス強化が図られたこと から交流人口の増加や地域活性化に繋がったことで、 指標1「フェリー利用者数」及び指標3「金魚と鯉の郷広 場の利用者数」の目標値を達成した。	—	
④広域観光へ長洲港の役割 強化推進 県境連携観光推進協議会の 動向を注視しつつ、熊本県と 長崎県との広域観光ルート確 立のための長洲港の役割を 強化していく必要がある。	・潮干狩り体験など地域の魅力ある観光資源を活用し た広域観光ルートが形成され、広域連携による観光振 興が促進された。	・ラムサール条約湿地に登録された荒尾干潟との連携強化を 図り、長洲港までのウォーキングルートやサイクリングコースの 確立を検討し、交流人口の増加・地域の魅力向上を図る必要 がある。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり
方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を
添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	住民による賑わいの形成	・地域資源の掘り起こしや活用、イベント等の開催による住民による賑わいの創出を図る。	・イベントの継続、企画、PR活動の強化
	整備箇所の適正な維持管理及び補修点検	・整備された広場設備や観光交流センターの維持管理を適切に行い、地域の魅力を維持する。また街路設備や誘導サイン等に破損がある場合、適宜補修を行う。	・施設の維持管理 ・定期点検、補修
	金魚と鯉の郷広場の利用促進	・多くの人々が訪れる交流の場として、その拠点性を維持するため、観光情報の発信やイベントの開催、住民主体の取り組みを維持していく。	・金魚と鯉の郷広場の利用促進に向けた取り組み ・イベントの継続、企画、PR活動の強化 ・まちづくり団体との連携に向けた取り組み

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	金魚の館の利用促進	・訪れる人にとって分かりやすく、回遊性が高い地区の形成に向けて、観光情報マップを作成する。	・金魚の館の利用促進に向けた取り組み ・イベントの継続、企画、PR活動の強化 ・観光情報発信(PR事業) ・観光情報マップの作成
	荒尾干潟との連携による観光振興	・広域観光ルート確立のため、ラムサール条約湿地に登録された荒尾干潟との連携強化を図り、長洲港までのウォーキングルートやサイクリングコースの環境整備を検討する。	・ウォーキングルートやサイクリングコースの検討、遊歩道の整備 ・荒尾干潟との連携
	長洲駅周辺的环境整備	・長洲港、長洲駅、金魚と鯉の郷広場を回遊できる、ソフト、ハードの環境整備を検討する。	・長洲駅周辺の整備箇所の検討

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

特になし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	フェリー利用者数	人/年	851,305	H24	868,000	H30	確定 ●	900,190	○	あり	—			
							見込み			なし				
指標2	観光交流センターの利用者数	人/年	196,418	H28	208,000	H30	確定 ●	179,758	×	あり ●	—	令和2年4月	R1年度の実績値を集計	
							見込み			なし				
指標3	金魚と鯉の郷広場の利用者数	人/年	204,233	H24	306,000	H30	確定 ●	332,745	○	あり	—			
							見込み			なし				
その他の数値指標1	金魚の町としての認知度	%	52.6	H27	/		確定 ●	68.0	/					
その他の数値指標2	金魚の館の金魚の展示数	種類	17	H29	/		確定 ●	28	/					
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	金魚と鯉の郷広場の設備環境の充実により、地域の憩いの場としての魅力が向上したことに加え、街路環境及び情報板の整備により、アクセス性・回遊性が向上し、フェリー及び広場の利用者数が増加したと考えられる。	整備効果を高めるため、町外に向けた情報発信を強化するなど、ソフト施策の更なる充実により、地域全体の振興につなげていく。
	うまく いかなかった点	指標2の「観光交流センターの利用者数」については、設定当初、過年度までの推移から増加を見込んで設定し、計画変更時においても、事業効果による増加を見込み上方修正したが、整備時期等の影響もあり、利用者数が伸び悩み目標年度内の目標達成には至らなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	指標3の「金魚と鯉の郷広場の利用者数」は、事業との整合性が高く、目標を評価するために適切だった。	—
	うまく いかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	事業期間中の都市再生整備計画の公表、事後評価シート原案の公表を町のHPで行ったが、特に意見は寄せられなかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	年度ごとに評価を実施して細やかにPDCAを回しながら事業を進める体制が不十分であった。	
その他	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	当初位置づけた事業において、他事業との関連により、事業の中止や整備時期の変更などが生じたことから、評価時点において成果の正確な把握ができなかった。	

添付様式6－参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

該当なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	令和元年10月15日～10月31日	令和元年10月15日～10月31日	担当課への書面郵送、ファックス、電子メール、直接持参	まちづくり課
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	まちづくり課窓口での閲覧	令和元年10月15日～10月31日	令和元年10月15日～10月31日		

住民の意見	意見なし				
-------	------	--	--	--	--

(6) 都市再生整備計画評価委員会の審議

添付様式8 都市再生整備計画評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	崇城大学 芸術学部デザイン学科 教授	令和2年1月28日	まちづくり課	長洲町地方創生協議会 運営要綱(長洲町地方創生協議会評価検証会議)	独自に設置
その他の委員	・長洲町商工会 会長 ・行政経験者(元長洲町副町長) ・子育て世代 代表(元長洲町教育委員)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・特になし
	成果の評価	・街路灯が整備されたことにより、防犯・安全面が向上したとの意見を定性的な効果発現状況として整理した。 ・指標1「フェリー利用者数」については、関連事業であるみなと憩い広場の整備による効果が高いとの意見があった。
	実施過程の評価	・実施過程の評価は適切に行われたと認められた。
	効果発現要因の整理	・相対的に妥当であることが確認されたが、指標1の貢献度を判断するうえで、より根拠となるデータ収集(多比良港からのフェリー利用者数の把握)及び整理が必要との意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表は適切に行われたと認められた。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の続きは適切に進められたことが確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・ウォーキングルートの確立のほか、サイクリングコースなどの検討も必要との意見があった。 ・当該地区に空き家が多く点在していることから、観光関連の施策だけでなく、空家等対策に関する事業展開も必要との意見があった。
	フォローアップ	・特になし
	その他	・若い世代のまちづくりへの参加を促進するようなソフト事業の展開が必要との意見があった。 ・クリスマスの時期に街路灯が整備された箇所などをライトアップしてはどうかとの意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・審議事項「今後のまちづくり方策の作成」に関する意見はあるが、全体として今後のまちづくり方策は妥当であることが認められた。
その他	・特になし	

※1 審議事項の詳細は「都市再生整備計画評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(第2回変更)

ながすにし
長洲西地区

くまもと ながすまち
熊本県 長洲町

平成30年7月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	熊本県	市町村名	ながすまち 長洲町	地区名	ながすまち 長洲西地区	面積	940 ha
計画期間	平成	26	年度	～	平成	30	年度
交付期間	平成	26	年度	～	平成	30	年度

目標

大目標 有明海と人、自然、観光、文化が織り成す「みなとまち」づくり

- 目標1 長洲港周辺の賑わいを創出し、人が集まる賑わいの場の形成を図る
- 目標2 地域資源を活かした「みなとまち」らしい景観を楽しむ場等の創出を図る
- 目標3 地域住民が楽しみ、憩い、健康的なみなとまちづくりを推進する

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・長洲町は、昭和32年に旧長洲町と旧腹栄村が合併し、長洲町が誕生してから50年以上が経過しており、豊かな自然環境と恵まれた立地条件を活かし、社会基盤の整備や福祉サービスの増進など、住みよいまちづくりを推進している。
- ・昭和39年には、新産業都市の指定を受け、臨海部の埋め立てによる工業団地造成を進め、造船、サッシ産業等を中心に大型企業が立地している。
- ・長洲町の重要な産業である水産業については、海苔養殖業や金魚養殖等が柱であり、特に金魚産業は全国的に有名であり、金魚に関する各種イベントや交流施設である「金魚と鯉の郷」の整備を行い、長洲町の名産ブランドを広めている。
- ・長洲町の海の玄関口である長洲港は、臨海部に大型企業が立地し、長崎県と熊本県を結ぶ有明フェリーも運行しており、アクセス性も国道501号線と接続し、九州の真ん中に位置する地理的要因も含め、交通アクセスの要所として多くの人が利用している。
- ・都市計画街路長洲・玉名線の整備や港機能を高める長洲港湾整備が進められており、その整備に伴い地域の賑わい創出や魅力づくりが求められている。
- ・今後有明海沿岸道路等の広域プロジェクトに運動した町の活性化を図ることが求められている。

課題

① 長洲町の産業と連携した港周辺整備促進

工業・商業・農業・水産業等の連携強化を図り、交流拠点として長洲港周辺を活性化させる必要がある。

② 臨海部の基盤整備とフェリー周辺環境整備促進

長洲町は臨海部に多くの企業が進出しており、臨海部の工業地でのポテンシャルは高いため、基盤整備とともに港のフェリーや周辺環境の利用促進を図る必要がある。

③ 長洲港を起点とした交流人口の増加推進

九州新幹線の開通による九州縦軸と横軸の連携(新玉名駅と長洲港の接続)による交流人口の増加や地域活性化に活かしていくことが必要である。

④ 広域観光へ長洲港の役割強化推進

県境連携観光推進協議会の動向を注視しつつ、熊本県と長崎県との広域観光ルート確立のための長洲港の役割を強化していく必要がある。

将来ビジョン(中長期)

- ・第5次長洲町総合振興計画(平成23年3月)では、「快適な暮らしができる安心のあるまち」としてJR九州や有明フェリーなど町内外の公共交通を活かし、近隣市町をはじめ他の地域の観光資源と長洲町の観光資源をつなぐ広域観光ルートの確立に向けた観光振興に取り組むとしている。また、的ばかい、のしこら祭、金魚と鯉の郷まつりなど町及び各主体で行われるイベントを継続して推進・支援し、長洲町商工会、企業、生産者などの活動に係る地域資源を魅力ある観光資源として連携・発掘し、町外からの観光客の招致に努め、賑わいのあるまちづくりに取組む。
- ・長洲都市計画区域マスタープラン(平成24年3月)では、『長洲港周辺を交流拠点として位置付け、周辺道路網の充実を図り、効率的で機能的な交通結節点の形成を促進する』こととしている。道路網の整備にあたっては、『自動車や歩行者の安全な通行に配慮した幹線道路や生活道路』の適正配置に努めるものとしている。
- ・有明海フェリー航路地域公共交通総合連携計画(素案)(平成22年3月)では、広域観光ルートの造成(大分・熊本・長崎の中九州観光軸の形成)、サイクルアイランドの促進(通勤客等の前後の自動車利用から自転車利用への転換)、観光情報等の発信や案内誘導の充実、地域住民レベルのスポーツ及び文化活動による交流イベント事業の開催があげられている。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
(目標1に対応する指標) フェリー利用者数	(人/年)	有明フェリーの年間利用者数	長洲港周辺の賑わいを創出するために、長洲港周辺の整備を行うことで、長洲港とその周辺の魅力を向上し、まちへの来訪者を増加させるとともに、フェリーの利用者を増加させる。	851,305	平成24年度	平成30年度
(目標2に対応する指標) 観光交流センターの利用者数	(人/年)	観光交流センター(新規)の利用者数	長洲港周辺から金魚と鯉の郷広場へのアクセス強化を図るとともに、当該施設内の金魚の館などに新たに観光交流センター機能を整備する。地域住民及び、通行車やフェリー等の利用者(観光客やビジネスマン、ツアー客等)等の広域の顧客をターゲットとする水産資源等を活用した観光施設としての機能向上を図ることで、交流人口を増加させる。	196,418	平成28年度	平成30年度
(目標3に対応する指標) 金魚と鯉の郷広場の利用者数	(人/年)	金魚と鯉の郷広場の年間利用者数	地域住民が楽しみ、憩い、健康的なみなとまちづくりを推進し、また、回遊性に富んだまちの形成を図るために、街路の整備や公園内の環境整備を行うことで、金魚と鯉の郷広場の利用者数を増加させる。	204,233	平成24年度	平成30年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
整備方針1(港・フェリー乗り場周辺整備プロジェクト) ・情報板(案内板等)の環境整備を行い、地元住民やフェリー利用者等の回遊性の向上を図る。	・「地域生活基盤施設」基幹／情報板(サイン等整備事業)
整備方針2(海辺で楽しむ観光交流センターの整備プロジェクト) ・長洲港周辺から「金魚と鯉の郷広場」にかけて新たな町の交流拠点として観光交流センターの機能の向上を図り、交流人口を増加させる。 ・長洲町の水産資源特産品等を活用した料理により、地域活性化のPR活動を行う。	・「高次都市施設」基幹／観光交流センター ・「地域創造支援事業」提案／水産関連施設整備(観光交流センター)
整備方針3(海辺を歩いて楽しむ散歩道整備プロジェクト) ・街路や公園内にトイレ・ベンチ等の環境整備を行い、地元住民等の憩い空間の整備を行う。 ・情報板(案内板等)、緑化施設(街路灯等)の設置・改良を行い、散歩道の機能向上を図る。	・「公園事業」基幹／金魚と鯉の郷広場内トイレ・ベンチ等整備事業 ・「地域生活基盤施設」基幹／情報板(サイン等整備事業) ・「地域生活基盤施設」基幹／緑化施設等(街路灯整備事業)
その他	

